婦人とゝもに

第十六卷
第十二號

フレーベル會

本號目次

斯くてまた暮れゆく……倉橋生

現代に於ける日本畫の潮流……澤村專太郎

滿鮮幼兒教育視察談……倉橋惣三

私が園長になりましたら……みなと

無邪氣なる子供の言葉……浦川ハル

フレーベルの思想……紹介子

本誌定價

一冊　郵稅共金拾參錢　六冊前金郵稅共七拾貳錢

拾二冊同金壹圓四拾四錢　郵券代用一割增

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。（振替口座東京一七二六六番）

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

庶務及會計に關する御用務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園內フレーベル會事務所宛

本誌編輯の御用務（寄稿、廣告等）は東京府下代々木山谷一二四倉橋惣三宛

大正五年十二月十日印刷納本

大正五年十二月十日發行

東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四

編輯兼發行者　倉橋惣三

東京市本所區番場町四番地

印刷者　守岡功

東京市本所區番場町四番地

印刷所　凸版印刷株式會社本所分工場

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內

發行所　フレーベル會

羽仁もと子主幹

子供之友

本誌は十分教育的に編輯された子供雜誌で御座います。記事も挿畫も子供の喜ぶものばかりです。樂んで讀む間に、頭腦をよくし感情を高尚にし、善良なる習慣を愛するやうになります。『子供之友』には、一つの非教育的なる挿畫も、一行の不注意なる文章もありません。『子供之友』は、家庭教育の最も有力なる補助機關であります。幼稚園及び小學校時代の御子樣方のために、熱心によき讀物を求めて居らるる御家庭におすゝめ致します。

定價 一冊十錢 半年分十錢 郵稅共 一年分六錢

婦人之友社

東京雜司ヶ谷 振替口座 東京一一六〇〇番

顧問高島平三郎先生

モダコ

日本一の繪雜誌

本誌は最も着實にして教育的幾多畫雜誌中獨自の地歩を占む。記事は全部片假名にて極めて平易。八九歳以下の子供の絶好伴侶なり。

特色の誌本

□最もまじめなこと□
□最も教育的なこと□
□最も平易なこと□
□繪の美しいこと□
□記事の面白いこと□

定價一冊拾錢
郵税五厘
□六冊郵税共五拾八錢
□十二冊郵税共壹圓拾錢
□總て前金の事

發行所　東京市小石川區林町五十七
モダコ社
電話番町六一番
振替東京二六九七三六八番

婦人と子ども

斯くてまた暮れゆく

大正五年十二月十日
第十六卷 第十二號

○

根本考察が足りない。根本考察が足りないから、問題がいつでも枝葉の處で動いて居る。而して、可なり色々のことが考へられ、試みられ、部分的に究明せられるに拘はらず、竟極の決定は何時までも其のまゝに殘されて居る。――我國の幼稚園教育界は、こんな風にして一年々々過ぎて居るのではあるまいか。時の經過は何程かづゝの進歩を積み上げてゆくには相違ない。しかし其の進歩は、餘りに氣まぐれな、無秩序な、斷片的な集積に過ぎないものであつて、そこに何等の系統的組織的進歩といふものを見ない。思へば餘りに非學問的なことではある。

○

思ひつきは時には非常に賢明なる眞理の發見者である。しかし又、非常に危險なる誘惑者である。思ひつきは偶然の力で吾々を其の一點に惹きつける。それだけに、全局の關係を忘れさせ、前後の關係を失はせる。それはそれだ。しかし、それは全體の中のそれだ。據のある基礎の上に位置すべきそれでなければならない。思ひつきは此の明白な事實を沒却させる程に吾々の心を部分的に興奮させる。――我國の幼稚園教育界に、またしても此の思ひつきの多いことである。

○

意味の分らない模倣や雷同や。同じく意味のな

い反對や批難や。こんなことの繰返へしの中に我國の幼稚園敎育界は、餘りに無意味に疲れて居る。風に吹きまはされて、ぐら〳〵と東西南北を廻りつかれて居るのでなければ、たゞ無意味に風に逆つて疲れて居る結果は、つまり、どつちもくだらないことに倦き〳〵して仕舞はざるを得まい。意味のない處に厭倦がある。根のない處に枯死がある。

○

『分らない！』『分らない？』我國の幼稚園界は餘りに平氣に、口癖の樣に『分らない』を繰りかへして居る。而して、一年たつても、三年たつても、五年たつても、同じ『分らない』に立ち止まつて居る。中には何が、如何に分らないかをも知らずに、たゞ『分らない』で居る悲しめる樂天家もある。それで何時になつて分つて來るであらうか。つまりは、『分らない』が、益々平氣になる許りかも知れない。

○

分つて居るといふ。其の多數は、『此頃疑ひが無くなつた』人である。或は、小さい枝葉の一局部に安住停立して、そこに、幼稚園敎育問題の全部を懸け、又自分の全部を懸けて居る人であつたりする。之れも一つの悟りの開き方かは知らぬ。しかし幼稚園敎育を根本的に考へて居る人ではない。

○

吾人は、年の暮毎に、餘りに同じ處をぐる〳〵廻りして居る我幼稚園敎育界に、物倦い樣な心持ちがする。又餘りに齒がゆい樣の心持ちもする。——敢て問ふ、我國幼稚園敎育の問題は、年毎に、どれだけの大きさを加へて來れるや。どれだけの深さを增し來れるや。換言すれば、問題それ自身がどれだけの進展をなし來れるや。殊に、此の大正五年に於て。

○

吾人はたゞ將來の希望だけに力を鼓して居る。それで現在の物倦さと、齒がゆさとを忘れやうとして居る。それで我國幼稚園敎育界の、現在の張り合ひなき如き淺さと輕さとを忍んで居る。——大正五年の暮れてゆく今日、我國幼稚園敎育に就て吾人の最も正直に感ずる處は斯ういふ感じである。（倉橋生）

現代に於ける日本畫の潮流

（フレーベル會總會講演大要筆記）

澤村專太郎

一　二個の流系

現代の日本畫を考へるには、順序上その歴史的基礎と云ふ問題から考へなくてはならぬ。即ち現代の日本畫は、過去のそれに對して一體如何なる關係を有してゐるかと云ふ問題を考へてみる必要がある。元來日本畫は日本の歴史が長いと同じやうに、極めて長い歴史を持つてゐるのであるが、其長い歴史的變遷の中には、種々なる畫風のものが興起衰頽の連鎖を紛糾させてゐる。けれども之を全局の上から考へると、二個の大なる流系が存在してゐるのである。其一は大和繪であつて、他の一は漢畫である。

極めて概括的に云ふと、大和繪と云ふのは、支那唐朝、若くばそれ以前の畫風がわが國に入つて來て、充分に成熟したものであつて、此流系の中には春日、土佐、住吉、其他種々なる畫派、例へば光琳一流の如きも亦包攝せられてゐる。而してこの大和繪はその起源に至つては隨分古いのであるが、それが著しく發達したのは平安時代に於てである。而してそれは所謂藤原時代より鎌倉時代に亘つて發展の頂點に達してゐる。然し其後に至つても、此流系は久しく存續してゐるのであつて、畫風より云へば、最も古い起源と同時に最も長い發達史とを有つてゐるものである。次に漢畫と云ふのは、鎌倉時代の末葉から、殊に足利時代に於て新たに支那大陸から移入せられた畫の流派と、別に德川時代の中葉に於て大陸から入り來つた流

派との總稱である。而してこの兩流の漢畫のうち前者を中古漢畫と呼び、後者を新漢畫と呼んで之を區別することが出來る。かの狩野派、雲谷派、長谷川派等は何れも前者の系統のものであつて、南畫、南蘋派等は何れも後者に含まるゝものである。

とにかくこの二個の大なる流系が從來行はれてゐたのであつて、同時に此二流派の合同運動、或は此兩流派の盛行に對する反動的性質の運動等が、わが近代に至つて起つてゐる。卽ち近代には前述の二流系とは異つた新派も亦現はれてゐるのである尤もこの新派といへども、その源流を求めると、或は大和繪から出たものもあり、或は漢畫から出たものもあり、或は此兩者の混融から成立したやうなものもある。而して此新派を以て目すべきものも一二に止まらないけれども、その特に注目すべきものは、圓山四條と浮世繪とである。

之を要するにさきの二流派が日本畫としては主要なものであるが、最後の新派は何れかと云へば近世的のものであつて、歷史的に云へば前二者より多少後れて發達して來たものと云ふ事が出來るのである。而して現代の日本畫を考察するには、特にこの圓山四條と浮世繪とは忘れてはならないものである。

二　德川末期の畫界

試みに德川時代の末期に於ける日本畫界の狀態を振返つてみると、當時最も勢力のあつたのは今述べた新派である。この新派は德川の前半期には日本畫界に於て何等の發言權を有してゐなかつたのであるが、後半期になると、目覺しい勢力を得て居るのである。尤も德川末期に行はれてゐた日本畫は新派のみに限られてゐたと云ふわけではないので、一方に於て別途の新派たる、新來の南宗畫が特に盛行してゐたのである。かの狩野派や土佐派の如きは既にその實力を失つてゐたので、唯久しく行はれてゐた情勢に依つて、僅かに餘喘を

保つてゐるに過ぎなかつたのである。

いま當時の畫界を地方的に考へたならば、何う云ふ關係になるであらうか。これには言ふまでもなく、京阪と江戸とがその中心となるのであるが先づ京阪では應擧以來京都固有の感情を盛つた畫態を墨守して來た所の圓山四條が盛行してゐた。同時に南宗の方にも貫名海屋、日根對山等の大家があつて、これ等が却々勢力を張つてゐた。而して江戸にはその頃狩野派が或意味の勢力を保つてゐたが、然しその實力に至つては全く薄弱であつた。それ故に事實上注目すべきものは、矢張り渡邊華山、椿椿山等によつて、代表せられてゐた南宗(江戸文人畫)であつて、その外に一大勢力を發揮してゐたものは、何と云つても浮世繪であつた。

德川末期に於て日本畫界は大體以上の如き狀態を持つてゐたのであるが、明治維新の大變動の爲めにすべての藝術が一時、全く暗黑世界の中に投せられて了つた結果、日本畫も非常に苦しい立場に置かれるやうになつた。明治時代の日本畫の大家がこの時代を如何に通過したかといふことは却々に興味の多い問題である。橋本雅邦が海軍省へ雇はれて、軍艦の繪を描いてゐたのはまだしも、中には糊口に窮し、畫筆を擲つて、全く方面違ひな手仕事に世を忍んだものも多々あつたのである。

三　暴風雨の後

併しこの暴風雨が過ぎ去つた後には熙々たる陽光が現れて來た。衰微の絕頂まで登り詰めた日本畫はまた復活の生氣を喚び戻すことが出來たのである。それは日本畫の衰微が人爲的と云つても不可なき程、極端であつただけ、更に力强く現はれるであらうと豫想せられた反動が果して起つて來た事である。卽ち明治十五年から二十年前後にかけて西洋文明の輸入が烈しく、それが極端になつた結果、國粹保存の熱と云ふものが、之に對して覺醒せしめられてゐるのである。是に於て今まで

放棄して顧みられなかつた日本畫が急に尊重せられるやうになつたので、この機を外さずに日本畫は新運動に着手したのである。而して現代の日本畫が新しい萌芽を得て來たのは、實に此時に在つたと云はねばならぬ。

一體此日本畫の反動的なる新運動は、非常に好都合な調子を以て起つて來てゐる。それはちやうど西洋文物の輸入と云ふ自己の正反對の熱情の尤も烈しかつたのを利用して起つて來た觀がある。即ち普通の狀態であるならば、國民が何れも西洋熱に浮かされてゐる時であるから、この國粹保存熱なども寧ろ冷笑を以て迎へられたに相異ない。然るに此國粹保存と云ふ事を鼓吹したものそれ自身は日本人ではなく西洋人であつた。從つて此國粹保存と云ふ事も、見かたに依つては、實に舶來品であつたので、或意味に於ては西洋文物輸入の反動ではなく、寧ろ正當な一個の結果に外ならないとも云はれ得る。而して實に此事情が却つて當時の日本畫の再起運動には種々なる便宜を與へてゐるのである。

重ねて云へば、當時先づ日本畫の長所を認めて之れが保存を提唱したものは、日本人でなくて、西洋人であつた。若し當時日本人が日本畫の擁護を唱へたとしたならば、それは無論固陋の僻說として忽ち排斥せられるに極つてゐたのであるが、師匠の如く崇めてゐた西洋人に、日本畫の特色を指摘せられたのだから一も二もなく頂戴して了つたのである。即ちこの日本畫の保護と奬勵との問題は全く意外な方面から頭を擡げて來たと云はねばならぬ。

然らば日本畫の保護奬勵を鼓吹した西洋人は何人であるかと云ふ事に就ては、無論一二の人士に止まらない。けれどもその最も有力な人は、アメリカ人でボストンに生れハーバード大學を卒業して後、日本に渡來し東京帝國大學に政治經濟學等の教鞭を執つてゐたフエノロサ氏である。氏は日

本美術を研究して、大にその優秀なるに感じた。而して日本にはこれまでの文明を基礎としたかくの如き尊重すべき藝術がある。今更それをすてゝ根底から作り替へたり、西洋畫の如き全く異れる文明の基礎に立つものを特に模倣する必要はないと力説したのである。今日から言へばこの外國人の日本美術觀のあるものには多少議すべき點がないでもない。卽ち氏の見解の或部分には、ちやうど吾人が外國の文藝を見て、正しき判斷を行ふ以前に、物珍らしさに眼を見張ると云ふやうな所などがあつて多少美術觀として不充分な點がないでもない。しかも當時にあつてはそは實に卓拔な識見たるを失はなかつたのである。從つて我國の識者及び藝術家は之に依りて大に動かされたのも、寧ろ當然と云はねばならぬ。

先づフエノロサ氏の刺戟に因て現れて來たのは美術敎育圖畫敎授の問題であつた。而して明治十九年濱尾男爵が委員長となつて岡倉覺三氏等が外國を漫遊して歸つて來てから、益、日本畫を尊重すべきことを說いた。かくて明治廿一年には東京美術學校が開設せらるゝこととなつた。之よりさき又一方には明治十五年に繪畫共進會の第一回が開かれ第二回が十七年に行はれてゐた。そこで日本畫の勃興すべき氣運は十分に釀成せられたのである。

四　日本畫の新運動

先づ日本畫の新運動に參加した人々は隨分多數であつた。しかしフエノロサ氏と岡倉覺三氏とを中心とした一群の運動が一番勢力があつた。この一團の中で異彩を放つてゐた作家が二人あつた。その一人は橋本雅邦で、他の一人は狩野芳崖である。是等の二人は共に例の漢畫系統の作家であつて、德川末葉に於ては殆ど見るに足らなくなつてゐた所の狩野の流を酌んで現はれて來た人である。この雅邦、芳崖二人の先覺に依つて幾多の秀才が續々現はれて來た。卽ち下村觀山、橫山大觀、

菱田春草等の諸家は何れもそれである。又雅邦と芳崖とは東京美術學校の設立に盡力する所が多かつたが、芳崖は惜むらくはその開校の四ヶ月ばかり前に物故して了つた、是に於て雅邦は入つて美術學校の日本畫に盡力したのである。

明治三十一年頃、或る事情のために、この一派の人々が美術學校を去ることになり、谷中に日本美術院なるものが設けらるゝやうになつた。しかしこれは幾干もなくして解散するの止むなきに至り又後には岡倉氏、橋本氏も相次いで歿して了つた。その後大正三年に至つて日本美術院は岡倉氏と橋本氏との遺志を繼ぐ人々によつて再興された今日文展と頡頏する院展なるものはこの再興日本美術院の展覽會である事は云ふまでもない。

雅邦一派は然らば如何なる主張を持つてゐたのであるかといふに、それは形式を捨てゝ、何處までも內容實質を重んずるといふのが彼等の信條であつたのである。粉本に從つて着彩や筆使ひの末節のみに汲々とすることは彼等の極力排斥した所である。例へば一本の竹を描くにしても、竹に對する作者の感想を現すことがこの派の眼目であつた。竹を描くのに線の強さや着彩のおもしろさにのみ興味の中心を置いてゐたやうな、從來の行き方はこの派に於て全然顧られなかつた。又極端な云ひ現はしをすればその形が實物に似やうが似まいが、そんなことは問題とならなかつたのである。畫家が竹の葉を赤いと感ずれば赤い竹の葉を描いても少しも差支はないといふ事となる。卽ちこれを簡單に言へば主觀主義的の傾向だつたのである。この主觀主義的の傾向を有する畫家の一團を或批評家は觀念派といふ名を以て表はしてゐる。この觀念派の主張は極端になつて行くと、實物とは何等の關係もない、一種の符牒のやうなものを描くことゝなり、しまひには何を描いたのだか、全く意味が分らぬやうなものを畫くに至るのである。從つて技巧上の手腕と思想の修養とがなければこ

の派の前途は實に危險なものである。事實上、一時は隨分奇しげなものを描いた畫家もあつたのである。そこで口の惡い批評家はこれを化物派と稱んだ位である。

とはいへ、當時技巧の末にばかり走つて、內容又は實質といふやうなことを考へてゐなかつた日本の畫家達に、かくの如く主觀的性質を尙び、內容實質を尊重する事の必要を力說したことは、疑ひもなく一服の淸凉劑であつた。從つて此派が之を投じたといふ功績だけでも却々に沒し難きものである。とにかく此一派が新しい日本畫の中心、假令全部のでなくとも、一部の中心となつたことは爭ひ難き事實である。

五　京都派

別にもう一つ新しい日本畫の中心がある事を忘れてはならぬ。それは京都に於ける畫家の集團である。德川の末に於て、京都には圓山四條の流れと南宗文人の流れとが顯著な畫派であつたことは前に述べた通りである。而してこの二つの流れは維新以後にもその勢力を維持してゐた。明治十一年頃から京都に於て、繪畫に關する運動が行はれて來た、而して十三年には府立の繪畫學校が設立せられたのである。京都にはその頃圓山四條の幸野楳嶺のほか、岸竹堂、巨勢小石などが居り、南畫の田能村直入、久保田米僊、それから森徹山の養子で圓山派を修めその後南畫を研究した森寬齋等の大家があつた。今日京都派の巨頭と目せらるる人達は大抵繪畫學校出身者であるか、又は是等の大家の門から出た人々なのである。試みに是等の大家の弟子にして、今京都派の大家として令名ある人々を數へてみると、楳嶺の門から出て居るのが故谷口香嶠、菊池芳文、竹內栖鳳等である。今は東京にゐるが川合玉堂も楳嶺門下の一人である。又寬齋の門から出て居る者には野村文擧、山元春擧等がある。

要するに現時に於て彼地に勢力ある作家の多くは、圓山四條か又は南畫の流を酌んだ人々であるが、是等の諸家の畫風はかの東京の畫壇の人々よりも寫實を重んずる風潮の濃厚なことは、彼地に行はれた圓山四條の本來の精神から見ても恠しむに足らないのである。殊にこの精神と風潮とは、自然景を圖するに於て實自然の研究を寫實的態度に依つて試み、遂に多少西洋畫の作法をも參酌してゐるのである。要するに東京のものに比して、京都派は概して實寫的のものであるが、然しまた在來の畫態とも無論その趣を異にしてゐるので、大體上新作風を示してゐると見做すべきである。

六　進歩派と保守派

以上に說く所によつて、岡倉覺三氏に扶掖せられた東京畫派の一と圓山四條の流れを汲んだ京都畫派とを引括めて進歩派と名けるならば、尙この他に保守派と目せらるべき畫家の一團がある。これは維新以後に於て國粹保存が唱へられたときに各違つた解釋を取つた爲めに、一つは進歩派となり、一つは保守派となつたのである。卽ち前者は新時代に應ずる繪畫を描いて益々新生命を開拓して行かうとしてゐるので、つまり動的に國粹保存を行はうとしたのである。而して後者は在來の日本畫といふものを絕對なものと思つて、たゞ今まで持つてゐたものを失ふまいと努めたのである。卽ち彼等の主張によると進歩派の所謂新畫法を試みる以前に、吾人の傳來の畫法を守り、その上に所謂國粹保存の實を擧ぐるに如かずと云ふのである。要するにかの動的の國粹保存に較べて靜的の國粹保存である。然るにその結果遂には保守派となつて了つて、伸びるところなく、維新前までといふ限られたる日本畫の範圍內に跼蹐するに過ぎないものとなつて了つたのである。大和繪の山名貫義、南畫の野口小蘋、文晁風の佐竹永湖、容齋風の松本楓湖渡邊省亭、その他四條派の流をうけ

た熊谷直彥、望月金鳳、村瀨玉田等はこの保守派の人々であつて、又故瀧和亭故荒木寬畝も此方面の大家であつた。而して是等の人々はすべて日本美術協會の名の下に集つて居る。尙小室翠雲、荒木十畝、小坂芝田、松林桂月等も今日では舊派若しくは保守派として分類せられて差支ない人々である。

以上の人々は國粹といふことを維新前までの近代日本畫に見出して居るが、その近代日本畫の根柢となつた古代の日本畫にまで溯ることをしなかつたのである。彼等は近代の日本畫の精緻な形式にのみ誘惑せられて、その思想を受取り、後繼者としてそれを伸ばし進めて行くことを忘れて了つた。而してたゞ在來の形式を繰返して、能事終れりとするに至つたのである。

明治時代の末に於ける日本畫界は以上の如き形勢を示してゐたのである。而してこの形勢が大正になつてから何う變化したであらうかといふに大した變化はないのであるが、最近の狀態は多少違つて來て居る。卽ち舊派は依然として保守、保存にのみ熱心で、毫も進步したる、充實したる內容を示さない。或批評家は舊派を「死穴に入つた病人」であると言つてゐるが、この比喩の善惡は別として、舊派の人々が新時代の藝術に對して發言權を有してゐないことは明白である。然らば曩に新派と目せられてゐたものは今日も尙且新派であるかといふに必ずしもさうではないのである。といふのは最近に新運動が起つて、昨日の新は今日既に古しとせらるゝに至つたからである。

七　最近の傾向

最近の新運動とは如何。次に少しくこれに就て說明を試みてみやう。

第一は復古運動である、これは一種のルネッサンスで、技巧上古い繪畫を研究し、その結果を應用して、新しい繪畫を描かうとするものである。

これは三つに分けられる、第一は大和繪の古い作法を研究して、新しい意味で大和繪を取扱つて行かうとするものであつて、これは鎌倉の盛時に溯り、更に又藤原時代にまで溯らうとするのである。第二は支那の古畫を研究するもの、第三は印度その他の古い壁畫を研究して、それによつて新しい氣運に應じて行かうとするものである。

第一のものは四五年前、寺崎廣業が「谷四題」大觀が「山路」觀山が「魔障」といふ題で試みたものがそれである。是等がこの運動の代表と目せらるべきものであつて、最近には松岡映丘の「室君」前田青邨の「京名所八景」がこの運動の一種の現れである。第二のは主に自然景を描く場合に應用せられるので、宋時代、元時代の山水畫が大部、參考に供せられて居るやうである。代表作には廣業の「夏の一日」「瀟洒八景」等がある。第三のはことに最近の傾向を示すものであつて、彼の法隆寺の壁畫に類似して居る印度アジャンタの壁畫などが研究せられ、線の使ひ方、繪の具の調子、心持の取扱方までも深く注意せられてゐる。英國のスタイン、佛國のペリオ等によつて、發掘せられた敦煌の古畫の手法なども逸早く研究せられるといふ有樣である。今年の院展にはこの風の繪畫が多かつた。朝鮮の壁畫、法隆寺の壁畫等もこの運動に携つてゐる人々に研究せられてゐることは言ふまでもない。

尙最近に於ては外國畫の感化影響が却々に大である、尤も外國畫の影響といふことは應擧や浮世繪あたりにも見られるのであるが、最近の影響は殊に目覺しいのである。先づ線の上から見ても近頃片隈の線といつて非常に評判になつて居るものは後期印象派の手法から暗示を得て來てゐるらしいのであつて、これは面の深味と運動を現すには都合がいゝのである。自然の見方も外國畫の影響を受けて大いに精密になつて來た。今までの日本畫の自然の見方は概念的であつて、始めから木の葉はみどり、女の顏は白と極めてかゝつたのであるが、今日ではそんな安直な見方は廢れんとしつ

つゐるのである。それから在來の日本畫は人物をはつきりと見てゐない、從つて曖昧な人物をよく描いたのであるが、今日では人物を自然物として精細に研究するやうになつた、人物を單に全幅の點景のやうに考へてゐた日本畫家にとつてはこれは大した進歩である。

凡そ西洋畫はこれまで寫實的なものと考へられてゐた、司馬江漢が西洋畫は實物に近い日本畫はこの點からいふと兒戯に等しいと言つたが、西洋畫卽寫實といふやうに、これまでは普通に考へられてゐた。然るに西洋畫に於ても近頃では漸々この寫實的傾向が排斥せらるゝやうになつて來た。この傾向は日本畫の落附き先を得るに甚だ都合がよいのである。西洋畫の新傾向と日本畫の歷史とが結び付いて、日本畫にとつて、都合のいゝ狀態が現れ始めて來た。而して主觀主義の立場に在つたものは益々主觀的となり、客觀主義的の立場に在つたものは漸次主觀的の要素を加へて來たのである。

八　結　語

一體日本畫に限らず、偉大なる藝術といふものは、常にその背後に偉大なる時代、偉大なる文明的背景を要求するものである。而してこの藝術の背景となるべき時代は、一般人の健全な趣味と審美眼とに依ることが大である。少くとも立派な美術が出來るためにはお互自身が立派でなければならぬ。我々自身が偉大になれば其處に自から偉大な美術が現れて來る。繪畫といふものは畫家ばかりが描くものではない。その時代の人々全體が畫家をしてその時代の精神を描かしめるのである。立派な繪も然らざる繪も皆その時代の直接若くは間接の反映であることを思へば、偉大なる繪畫を要求する前に、我等の時代をして偉大ならしめなければならぬことが直に了解せらるゝであらう。わが日本畫の前途も此吾人自身が如何に偉大に如何に深遠になるかに依つて決定せられるのである而して今日茲に集つておられる幼稚園關係者諸氏は實に此點に就て最も大なる使命を有つてゐる者と云はねばならぬ。故に斯る事柄は今後重要な問題として充分に諸氏が考察せられなければならない事だと信ずるのである。（文責在記者）

滿鮮幼兒教育視察談（承前）

（フレーベル會總會講演大要筆記）

倉橋惣三

○滿洲の氣候風土と幼兒教育

滿洲の幼兒教育に於て、特に考へられなければならぬ第二の問題といふのは、氣候風土に關するそれであります。御承知の如く、滿洲は寒い所でありまして、毎年十一月頃から翌年の三四月に掛けての寒さといふものは、實に嚴しく、北の方へ行くと零下三十度位、南の海に面した方へ行つても零下二十度位の寒さなのであります。それ故この溫度といふことは、滿洲に於て、保育上重大な關係を持つことゝなるのであります。但し、此の嚴寒に應ずるだけの防寒設備は充分出來て居まして、建物は例の露西亞式で壁が厚く、窓も皆二重になつて居ます。大きなペチカが各室にあつて、いくらでも暖かく焚くことが出來ます。殊に炭鑛地の撫順などでは、會社から町全體へ豐富なるスチームを供給して、それが各戸で隨意に調節せられませんから、冬は却つて熱つ過ぎて、風を窓から吹き入れて息をつくといふ樣なこともあるそうです。勿論、他所はこんな呑氣なことはないので、可なり防寒に意を用ゐなければならんのですが、それでも室內は、人爲でどうとも出來ます。ところが、困るのは室外です。雪は餘り深くもないそうですが、地は凍つて仕舞つて、零下何度の寒氣が肌にせまり、殊にやわらかい子供の氣管にせまつて來るのです。すなはち長い冬季の間、樂しい自由な戸外の生活は幼兒から閉されて仕舞ふのです。此の時、室內保育に關する、實に非常な苦心

が必要になつて來ます。殊に幼兒の健康を專念する幼兒運動場として、其の苦心は實に察するに餘りあるのです。室は前に申した通り、倶樂部の一室などが用ひられて居たりするのですから、室內遊戲場としての特別の設計を要求するのは無理ですし、運動具といつても、戶外の樣に自由な供給も出來ません。此の長い冬を、どうして積極的な、殊に健康發達に適切な保育をしようかとは、滿洲保姆諸君の共通の問題の樣です。

夏季は、冬季に較べれば、極暑の間がそう長いのではありませんから、冬季程大きな問題を喚び起して來ない樣でありますが、それでも百度に近い炎熱は、幼兒の戶外遊戲に適當のものではありません。おのづから室內が主になりませう。然るに前述の通り、冬の注意が主になつて出來て居る設備ですから、夏季の室內遊戲場としては、又種々の不便が起ります。保姆諸君は玆で又苦心せられるのであります。兎に角く、氣候より生ずる保育上の特別な問題は、吾々平生、冬といつてもそれ程寒くなく、夏といつても、それ程暑くない中溫氣候に住むものゝ測り知れない處です。現に私などが、渡滿の初め、殊にそれが一番いゝ氣候の時だつたものですから、內地で考へ慣れて居る例の戶外保育の主張を、何の條件も構はずに說いたものです。後にいろ〳〵氣候風土の特別な事情を聞くに及んで、自分でも其の心無しが可笑しくなつた位です。しかし、又一方から考へますと、斯く一方に幼兒の戶外生活が自然的に禁遏せられて居れば居るだけ、嚴寒と酷暑との間、酷暑と嚴寒との間の、短少ながら、かけ代への出來ない大切な季節——それが、滿洲に於ける此の兩季節は又特別にいゝのですから——を充分に戶外生活に利用させるといふことが、格段の必要を生じて來ると思ふのです。

○滿洲の社會的環境と幼兒敎育

第三に、私の特に氣のついた問題は、滿洲の社會的環境と幼兒教育との關係です。之れは寧ろ一層逆つて、滿洲の家庭教育に於て先づ痛切に考へられて來る問題です。卽ち外國人の社會生活との接觸といふこと、それも優良なる外國社會なら問題は又別になりますが、滿洲に於ては實に下等なる支那人の生活が絕えず幼兒に接觸して來るのですから、一口に言つて仕舞へば、實に困る問題が澤山起つて來るのです。勿論、支那人の社會が皆下等なのではありません。言ふまでもなく立派な人も立派な社會も澤山あります。しかし、滿洲の街上に無遠慮にさらし出されて居る支那人なるものは、其の不潔なることに於て、其不しだらなることに於て、其の下品なることに於て、實に甚しいものです。私は、斯ういふ連中を見て支那人一般を卑しめて仕舞ふのは甚だよくないことで、支那人の爲に甚だ氣の毒な至りと思ふのですが、事實上、これ等の連中が到所に充滿して居て、幼兒運動場の柵の傍まで來て、幼兒の環境を形づくるのは、誠に困つたことなのです。勿論滿洲の日本幼兒は、幼兒ながらに日本人といふことをよく意識して居まして、之等の支那人を自分達から、よく區別して考へては居ます。意識的に之れを眞似やうとする樣のことはありません。しかし環境が無意識の中に及ぼしてゆく影響は可なり大なるものに見積らなければなりません。少くも其の反對の良き環境を有して居るものと比較すれば、其の差は二重の大さになる譯です。玆に滿洲保姆諸君の苦心は如何ばかりかと思ひます。

ところで、斯ふいふ特殊な環境から生ずる問題は、又一種の奇妙な事實を生んで居ます。卽ち之等の下等なる支那人に對する一般日本人の態度から、幼兒等に早くから輕侮——兎に角く一個の人間に對する——といふ感じを持たせることです。實際、幼兒達に至るまで之等の下等支那人の群を輕侮して居ることは非常なものです。而して、之

れは實際輕侮すべきだから輕侮しても仕方ないといふ樣なものですが其の輕侮が一つ通り越して弱いものいぢめといふ類の極く卑しいことや、殘忍無慈悲といふ樣なことや、尙甚しきは弱者利用といふ樣な一層卑しいことやを生ずる傾のないでもないのは、頗る痛心にたえないことなのです。それも支那人達の爲にとか、人道の爲にとかいふことを暫く措いて、先づ幼兒の敎育そのものゝ上から、憂慮するのです。私が或る幼兒運動場へ案內せられた時、その直ぐ附近で騷しい人だかりで、何か聲高に言ひ罵しつて居ました。何事かと一寸立寄つて見ると、一人の若い貧しい支那人が瓜を盜んだとかいふので、日本人が呵責して居るのでした。その責め方が實に嚴しいもので、內地などではめつたに見られない有樣です。太い棒がつゝけ樣に頭上に下る。瓜盜人はひい〳〵聲を擧げて泣いて居る。見物は笑つて居る。その中には子供も居ました。斯ういふことは恐らく珍らしいことでは無いのでせう。

滿洲に於ける日本人對支那人といふ問題は、非常に大きな問題です。いろ〳〵の重要な意味が、その中に含まれ、又それから生れ出る問題なのです。しかし、私は茲で此の大問題を輕々しく取扱つて仕舞ふとはしません。たゞ、幼兒の爲の環境といふ、純敎育上の一問題とし、彼の地の保姆諸君の、さぞ種々お困りのことだろうといふことを思ふに止めます。

尙ほ、滿洲の幼兒運動場に關して、いろ〳〵所見もありますが、まづ此位に致しておいて、次に奉天で見ました支那の幼稚園のお話を一寸申し上げませう。

○奉天の支那幼稚園

奉天にある幼稚園は蒙幼園といふのでありまして、奉天女子師範學校の附屬の幼稚園であります。初めは蒙幼院と言つたのを、後現名の蒙幼園に

改めたのださうでありますが、これは全然日本の幼稚園のしきうつしであります。保姆は支那の婦人であります。この保姆は曩きに日本から聘した山口まさ子氏に依つて、養成せられたのでありまして、この時に養成せられた十五名の支那婦人の保姆が、奉天省内の各幼稚園に派遣せられ、その内の五人が母校に留つて、附屬の蒙幼園に、教鞭を執つて居るのであります。蒙幼園は全然日本流で、嘗ては歌も日本の歌を教へてゐたのださうであります。尤もこの頃では、支那語の歌を節は日本のまゝで教へて居るのであります。即ち此の日も「鳩ぽつぽ」や「電車の道は」や「水鐵砲」の譜の唱歌が歌はれました。建物は支那流に出來て居りまして、保姆室、附添室、遊戯室、保育室及び遊園の設備があります。保姆室には支那流に赤い蒲團と休息用の枕とが置いてありました。遊園には鞦韆が二つ、上下板が一つ、その他小山などが出來て居ました。遊戯室は十間四方位の室で、其處には支那流の裝飾が施されてありました。保育室は五つばかりありました。机の並べ方は、我國の小學校の式に似て居りました。保育室にはボールドが掲げてあり、ベビイ、オルガンが備へてありました。保育方法としては矢張恩物が適用されて居りますが、同時に算術、國語、なぞといふ小學校然たる科目も教へられて居るらしいのであります。保育室を幼兒講堂と呼んで居るのに見ても、支那人の保育に對する考が、凡ぼ窺はれるであらうと思ひます。私は筆談で、保姆に保育の効果を尋ねてみましたら、「行儀作法がよくなつていゝ」といふやうなことを答へました。支那の幼兒教育者は、大體、斯る意味で、幼稚園の効果を認めて居るらしいのであります。

一體に支那の幼兒教育方針ともいふべきものが主智的に傾いて居ります爲めに、社會としても幼兒に與ふべき玩具や繪本は、極めて尠いのであります。私は奉天中探して、人に訊いたり何かして、

やつと數冊の幼兒繪本を得たのであります。是等の繪本は皆上海で出來たものであります。支那の小兒は皆少し大きくなると、大人の讀む小說などを讀んで居るのであります。因に支那には保育に關する著書がたゞ一冊あります。それは前に申上げた山口まさ子氏の保育講義を漢譯したもので、「保育學」と名けて出版せられて居ります。

○ハルピンの幼稚園

私は茲まで來た序に一寸でも露西亞人の經營して居る植民地敎育が見たいと思ひまして治爾賓まで行つて見ました。殊にハルピンには幼稚園があると聞いて、それを見たいと思つたのでした。しかし相憎、私の目指して行つた幼稚園は、丁度他へ引移るところでありましたので、親しく保育の實況を視察することは出來ませんでした。でも折角來たものだからといふので、その新築中の幼稚園の保姆と話をして來ました。保姆といふのは鐵緣の眼鏡を掛けた若い露西亞の婦人でした。獨逸語で話をしたのでありますから、露西亞式の意味が正しく現はれて居るか何うかと思ふのですが、先づ大體は十歲位まで敎育する處らしく所謂讀み書き等の六ヶ敷いことを敎へて居るらしいのであります。兎に角、我が國の幼稚園に比して著しく智識的であるらしく私には思はれたのであります。

○京城の幼稚園

朝鮮には、たゞ京城に居たゞけでありましたから、あまり多くを見聞することが出來ませんでした。朝鮮には京城を始めとして、仁川、群山、釜山其他の各地に、幼稚園が設けられて居ります。しかし是等の幼稚園は、全部私人の經營に係るものでありまして、公立の幼稚園は一つもありません。朝鮮の敎育制度の中には、幼稚園といふものが、設定せられて居ないのであります。京城で見た幼稚園は、朝鮮人の幼兒の爲の幼稚園と、內地か

ら行つて居る日本人の幼兒の爲の幼稚園と二つ見ました。前者は京口さだ子氏、後者は大和田りよう子氏が主任で、朝鮮人幼稚園の方には年若い一人の朝鮮婦人が保姆として從事して居られるのが、非常に心うれしく思はれました。

以上甚だ簡略なお話で、何の御興味をもひかぬことゝ思ひますが、先づ見て來ました丈けの大體の筋だけを申し上げました。終りに、彼の地の幼兒敎育の益々發展することを祈り、また私一個としても彼の地幼兒敎育者諸君の健在を祈るのであります。

（此の講演は、後に充分筆を加へて、滿鮮幼兒敎育界の狀況を詳かにし、又幼兒敎育者諸君の御盡力の有樣を充分委しく紹介したいと思つたのでありますが、其の暇がありませんで、こんな粗雜なお話のまゝを掲載しました。私として甚だ遺憾であるのみならず、彼の地諸君にも甚だ相濟まぬことゝ思ひます。倉橋生）

師走七句

何に此師走の市へ行からす　○　芭蕉

隱れけり師走の海のかいつむり　○　芭蕉

山伏の見事に出たつ師走かな　○　嵐雪

世の中は胸から上の師走かな　○　如行

しまうたるあと日の長き師走哉　○　而得

市に入てしはし心をしはす哉　○　素堂

町中の師走にましる雀かな　○　乙由

私が園長になりましたら

みなと

僅か五ヶ年間に於ける保姆としての私の經驗は、實に面白く、且愉快に過ごしました。生々した元氣春の如き溫情、ゆつたりした寬容、これ皆主任の君より示されたる敎訓、此の中に、生活したる五ヶ年は、實に幸福にしかも短く、私を感ぜしめたのであります。斯く私の敬愛する主任の君の、半面を皆さまに見ていたゞき、且つは私の夢見た樣な、未來を讀んでいたゞいて足りない所を補つて、いたゞいたなら、足らぬ勝ちの、私に取つて、如何程幸かと存じまして、玆に一つ二つ申述べて見たいと思ひます。

先づ園長とか主任とか申す位置につく前に、園の主宰者として、同僚を引き廻はす者として、園の全責任を引受ねばならぬものとして、次の要素がなければならぬと思ひます。

一深き思ひやりが至極大切です。

二度量が大きくなければなりませぬ。

三自分の長所と短所とを知り、人の長所と短所とを見る明がなければいけませぬ。

四見識がなければなりませぬ。

保育上自分の園で取つて居る主義が立つて居なかつたり、研究上の諸問題に定見が立たなかつたりしては、到底徹底的の事業は出來得ません。

五謙遜と實行力が大切です。

何事も因となるべき所には十二分の力を注いで、それから生れた結果に對しては滿足する樣にして順次に進んでゆけば、失望も、落膽もありません。凡て「高慢は藝の行きつまり」と武術家が戒めて居ります。

以上の外にまだ〳〵ありませうが、此の五つでさへ中々出來るものでない、併し此の中の一つが卓越して居れば慥に人を心服せしむる價値があると思ひます。

次に園長として職員の組織が最も大切と思ひます。

一保姆の撰擇

自分で自分の事を考へましても、自分に決して滿足は得られませぬ。まして人の事、何から何まで、感心する樣な人はありません。常識ある事、進歩的、研究的の傾向を有すること。求知欲のある事、愛情に富める事、是等は缺く可からざる要件でありませう。尙最も注意すべきは、自分(園長)の短所を長所として居るものを入れるのが技倆ある園長でありませう。又黨派とか感情とか申すことを全然排除して門戸を廣くし己れより優れるものを求むる事を望む人こそ誠に人に長たることを得る人であると存じます。

二統　御

さて職員の組織が曲がりなりにも出來たとすれば、次に起る問題は如何にこれを運用するかと云ふ事であります。

1 家庭的にすること。

此の家庭的といふことは隨分意味深いことゝ思ひます。

2 長所短所を見て其長所を利用し、其長所に信

賴することが大切であります、人の長所、短所を見出すに注意すべきは、先づ此人は何が長所であるかを專心に見ることであります、いろ〳〵の機會を通る時に、ふと發見せらるる事が多いので、短所は其間に自然によく見えるものであります。

3 意見を用ゐること。

部下のものが何か意見があつたら、どんなつまらないと思ふ事でも、其人の力一杯の考を述べるのであるから、能く傾聽してやるのです。そして用ふべきは直ちに用ゐ、少しく手を加へて補つてやればよい事であるならば、これを活かして用ふる。苦言を呈するものがあれば、自分を空しくして其言葉を聞く。人の忠告は心から喜んで聞くことが必要です。人によつて聞き、人によつて怨む樣な狹い量見では到底上に立てないと思ひます。

4 感謝。

部下の人が、園の爲めにしてくれる努力に對しては、常に感謝の意を持つて居らねばならぬ。何か常よりも骨折りの多かつた時、まごころから出る感謝慰藉の辭は千金に値する事を忘れてはならぬ。

又人に物を命ずるにも、十の內三分だけ述べてあとの七分は其人の伎倆に俟つ樣にする、感謝の餘地と信賴の表示とは、其人を活かす要道であります。

5 功を部下に歸し失敗は己れに引受ける事。

これは自分の德を全からしめ、部下を奮起せしむる要道であります。「人に先だつて憂ひ、人に後れて喜ぶ」といふ事は千古の金言であります。

まだ〳〵研究や設備がいろ〳〵ありませうが、大本が立てば、あとは次第〳〵に附隨して出來て行

くものでありませうから、先づこの位に致して置きませう。

要するに根氣くらべで、自己の人格を上げるにも、職員に對しても幼兒に向つても、撓まざる努力を要することと思ひます。併しこの一つ一つの努力はやがて幼兒の幸福を生み出す事と存じます。私達女性には陷り易いから常に心に戒めたいと思ふふしを述べて終りを告げませう。

一長い間慣れて鈍感になり易い。

二研究も自分の力に餘つて來ると捨てゝしまふ。

三研究心が盛にある時代には知らず〳〵片よつたりして全般に目を注ぐことを忘れたり、無駄骨を折つて研究倒れとなることがある。

四理論上ではなる程と感心しても、實際にあてはめることを忘れる。

五外から親切な注意があつても、それば口にこそ云ひ得るも實行は出來ぬと排斥し易い。

六自分の頭を新らたに進めて行く爲めに目や耳の修業が大切であるが、長い間にはこれを忘れる。

七自分が元氣を失つて來ると、部下にはなるべく己れの意に盲從し易い、御し易いものを入れたくなる。（完）

無邪氣なる子供の言葉

大阪市汎愛幼稚園　浦川ハル

次に摘記いたしましたのは、幼兒の無邪氣な、可愛らしい言葉であります。先入智識に煩はされることの尠い幼兒は、時として正確な認識を爲しこれを簡單な、磨かれない言葉で、素直に語り出すのであります。斯ういふ時に、私達は興味を感ずる以上に、所謂『負うた子に淺瀨を敎へられる』底のあるものを指示されることが尠くないのであります。次に記すものは、今申した程の意義を有するとも思ひませんが、「無邪氣なる子供の言葉」を拾集することの意義と興味とに、幾分たりとも、裏附けることが出來るならば幸であると存じます。

■

電話をかけてから電話室を出て來ると、傍に聞いてゐた幼兒が

「先生、今話してなさつた人は、箱の中（電話機のこと）に立つてはりましたの？」

■

お月見の話をして聞かせると、一人の幼兒が、

「お日見はいつです？。お日見やつたら暑いな」

■

鬼ごとをして遊んだ時、お山へ逃げてのぼりませうと言ふと、一幼兒

「お山へ逃げたら雀です」

■

「うちではお母さんが一番えらい」

「なぜですか」

「お父さんと喧嘩したら、お母さん勝ちなさる」

■

「きのふ、箕面電車にのつて、十三(じうそ)(地名)へ行つたら、げんげの花がたんと咲いてた。そして雨降れへんのに蛙がゐた。(雨が降つてゐないのに蛙が居たといふ意。「お池の蛙」の唱歌から雨と蛙とを附物のやうに考へて居るのなり)手々でいろたら(いぢつたら、觸つたらの意)ブイ〳〵花のとこへ逃げた。げんげ花かて好きのやろ。」(蛙は雨も好きだが、けんげ花も好きなのだらうの意)

■

「げんげ花、ねんねするまで乾しといたら、洗ひ粉になるわ」

■

「むなたはお齒が脫けて、おぢいさんのやうね」

「おうちの柱で、うつて脫けたよつて、今日かへつたら、拾つて明日持つて來るわ」

■

「雪の降るわけ僕知つてる」

「オヤ、さうですか、何うして降るのでせう」

「雪達摩がとけて、天から落ちて來るのや」

■

「きのふ、梅田から汽車にのつて、え丶處へ行きました」

「え丶處つて、何處へいちつしつたの」

「汽車から降りたところにも、梅田がありました」(梅田といふ固有名詞を、停車場なる普通名詞と同樣に使つて居るのなり)

■

幼兒と幼兒との對話

「あんた、お父さんのお腹から出たの、お母さんのお腹から出たの、どつちや」

「僕、お父さんのお腹から出たのや」

■

「私、田舍へ行つて、泊つて來たわ」

「田舍には、どなたがいらつしやいますの」

「男のお祖父さんと、男のお祖母さんと二人居つた」(祖母は髪を切つて居るのなるべし)

■

保姆の襦袢の裾の赤いのを見出して、

「ア、、先生女やなア」

■

「うちのお父さん、さむらひやよつて強い。盗人かて、ようつかまへる。先生ところかて、ぬす人が來たら、いふておいなさい、お父さんにいつてもらうてあげます」

■

昨夜電燈が消えたといふ話をしてゐた幼兒に、電燈はなぜ消えたのですかと質問したら、

「油が無いやうになつて」

と答へた。

■

「今日、お父さんとお母さんとけんくわした。私は幼稚園へ逃げて來た。けんくわは大きらひや」

■

桃の實を見せて、これは何處に出來てあるものかと聞けば、

「川から流れて來たの」

■

朝、保姆の出勤して來るのを見て、

「先生、朝から、どこへ行つて來なさつたの」(保姆の家は幼稚園なりと思つて居る)

■

「今日私の誕生日で鯛の御馳走やつた、大きい鯛やけど、やすかつた」

■

「ゆふべのお月見はどんなでした」

「お月さん、雲の中に、ちゝかんではいつて仕舞うた」

■

「きのふの式に、うちにお祖母さんが來やはつた。

歸つてから、「お前の先生は、くろんぼやな、遠いところで見てゐたら、影法師みた樣な」といつてはりました、

■

家庭に問合せの事項があつて、書面を送つたのに、其の返信を幾度催促しても、持つて來ない幼兒が、

「うちのお祖母さん、そんなもの、持つて行かいでもよい、先生がおこつたら、お灸をすゑてやるといつてゐました」といふ、

同じ幼兒が翌日また、

「きのふのこと、歸つていふたら、うちのお祖母さん、取消しやといふてはつた」

■

「あなたのお母さんのお名は？」

「御寮人さん、オイ〳〵、お母ちやん。お父さんの名はモシ〳〵」

■

天のお月さんとらうと思ふたかて、高い木や、はしごではとゞかんといふ話の出た時、名案を思ひ浮べた幼兒が、

「それは、とんぼ、食べたら、え丶羽が生へる。そうしたらお月さんのところへ行ける」

■

「池の中の、お月さんは、手々ですくうても、ぢきになくなるから、お月さんより大きい、杓子で、そッとすくうたら、上手にとれる」（をはり）

あら何ともなや昨日は過て河豚汁　芭蕉
○
ふぐ汁にまた本草のはなしかな　其角
○
鰒汁や食はぬたはけに食ふたはけ　一調
○
ふぐ賣の請合て行く命かな　永吟
○
さつぱりと入齒はづさんふぐと汁　文長
○
鯖にこりず松魚にこりず河豚汁　其角

フレーベルの思想

―フレッチャーに據る―

紹介子

お斷り。編輯の都合上、前號のこの記事は、フレーベルよりの引用を中途で打切りました爲めに、小みだしの「教育の目的」といふ項が完結しませんでした。それ故に本號のこの記事が前號の分と併せ讀まなければ筋の通らぬものとなつて居ることを讀者諸君にお詫び致します。

「とはいへ、內部的なる夢想と外部的なる智識、知覺、行爲との間には大きな溝渠があつた。それ故私には斯ういふ風に考へられた、卽ち人間性の教育教化に於て包含せらるべき、否包含せられなければならぬすべてのものは、本然の發達段階に於ける性質に依つて、及びその性質がその周圍と持つ關係に依つて、必然的に條件づけられ、賦與せられなければならぬものであると。而して是等の關係を尊敬し且つ知るやうに訓練され、是等の關係を統轄し、考慮するやうに訓練された人が、教育された人、教養を受けた人であるやうに、私には思はれたのである。

その頃私は非常に一生懸命になつて努力した。けれども方法並びに教育の目的は、私が數年を費してすべてを秩序に持ち來たし、すべてを潑溂たる――又は私が時折使ひ馴れた表現法に從へば――內的の結合に持ち來たさうとしても、ホンの少ししか捗らなかつた位に遊離して居り、無秩序になつて居る斷片の堆積裡に私を佇立させて了つた……。

ペスタロッチの方法を私が必要だと思つたことは事實である、けれども又私がそれを生氣潑溂た

る力を十分に備へて居るものと思ふことが出來なかつたことも事實である。最も私が失望したのは教授課目の間に有機的の結合が少しも無いといふことであつた。これは私が生徒と共に自分で手掛けて見て強く感じたのである。尤も生徒はこのことを氣が附かなかつたのであるが。私はやがて斯ういふことを固く信ずるやうになつた、卽ち眞の教育とは全體を渾一と見るが故に湧いて來るところの悅ばしき、自由な活動であつて、この活動は、全體の本質であるところの固有の生活力によつて、條件づけられるのであると」

教育家の仕事といふものに對して、フレーベルの持つてゐた概念は、彼自身も告白して居る如く最初は甚だ限られた狹いものでありました。しかし、彼の見解は漸次擴大せられてゆきました。フレーベルは恁んなことを書いて居ります。

「私は私の教育家として第一の仕事を簡單に記述することが出來たであらう。つまり私は一生懸命になつて、私の生徒に、出來るだけ、善い教化、教育、發達を與へやうとするのであると言つたであらう、けれども私は私が當時生活して居た境遇及び私が當時達してゐた教養の段階では、恐らく、この目的を達することが出來なかつたであらう。私がこのことを十分に意識すると同時に、イベルドンへ行つて、ペスタロッチの許に於てこの目的に達するより他に途はないといふ考へが、私の心に浮んで來た。私はこの確信を十分の決心を以て發表した。斯くて私は、私の三人の生徒と共に、一八〇八年の夏、イベルドンへ赴くべく決定するに至つたのである」

而して、この時のフレーベルの意氣組は太したものでありました。

「若し私がイベルドンに期待してゐたことを一言にて蔽はんとならば、そは少年及び青年の力强き精神生活である、この精神生活は獨創的活動のすべての形に於て現はれて居るのである、而してそ

れ故に肉體的、精神的のすべての能力を十分に働かしめて居るのである。……イベルドンに於て回答の與へられないやうな問題があり得やうとは私には思はれなかつた」。

フレーベルは、實際「偉大な、多面的な、刺戟的な生活」を、豫想通りにイベルドンに於て發見しました。けれども彼は斯う書いて居ります。

「その刺戟的な生活も、私を盲目ならしめて、多くの明白な缺點や不備を見せないやうにさせることは出來なかつた。けれども一般の奮鬪的態度――尤もその頃は多少異つた形の努力、不適當な形の努力が示されてはゐたが――が內部的結合及び渾一に代つてゐたのである……。

この方法及び目的の兩者に於いて努力の渾一が缺けて居るといふことを私は直ちに感じた。私はその中に、當時行はれてゐた教育法の不完全、不十分を認知した……。私は、より高き何ものかを感じてゐた。而して更に〳〵產出的なるべき原理――全體の內部的渾一を信じてゐたのである。私はペスタロッチ程の强大な生活力を持ち得ないけれども、右の原理はペスタロッチよりも明瞭に認めて居ることを信ずる」

イベルドンへ滯留すること二年の後、フレーベルは、次のやうに私達に語ります。

「全體に於て、私はイベルドンに於て、向上的なかゞやかしい時を過した、而してそれは一面私の生涯の決定的時代であつた、而かも終頃には、內部的の渾一と必至の缺無並びに外部的の被理解性と完全の缺無とが益々私にとつて、明白なものとなつて來た」

すべての事物の本質的の渾一といふ、漠然とした、理想的な概念が、フレーベルの心を既に、攻圍して了つたといふことは明かであります、その後二年經つて、彼がゲッチンゲンの大學に學生となつて居た時分には、彼は斯ういつて居ます。

「あらゆる處に於て認めることの出來る、すべて

のものを包括する內部的の絕對法則は、直接的及び概括的の程度に於て種々に相違して、自然生活、人間生活のすべての事物に現はれて居るといふことが、明かに力强く私に感ぜられた」

フレーベルは、この意見を强く懷いて居ました、それ故、彼は後年、彼の敎育の外部的方法に於てこの意見に適應した方法を案出しやうとして、種々の技巧的なものを考へたのであります。

フレーベルの說の中で、價値のある、實のある部分はすべて、ペスタロッチの芽から成長して來たものであります、而してその特色的の缺點ともいふべきものはフレーベル自身の萬有神論的の理想主義からの所產であります。斯う斷定することに太した不都合はないと私は信ずるのであります

然らばフレーベルはペスタロッチを如何に評價して居たでありませうか。これを考へてみるには彼の「シュワルツブルヒ＝ルードルシュタットの公女に奉る書」を見るに若くはありません、彼はこの報告の中で次のやうに言つて居ります。

「ペスタロッチが敎師の上に爲して居る要求は簡單で且つあたりまへで御座います。その要求は敎師と生徒との性質を基として居ります。それ故にこれは極めて分り易いもので、誰にでも容易に實行し得るもので御座います。

生徒の習ひ覺えるべき學課に就ても同じやうなことが言はれます。是等も亦簡單なものから進んで行き、その敎授過程は各學課の性質の中に存して居る關係の必然的の聯絡によつて決定されるので御座います。敎師が自分の能力に從つて、或る點から出發します。さうすれば——若し彼が彼の學課の本質的の性質に於て敎育されて居るならば——彼は彼の敎育の要求に從つて、觀察及び自修によつて彼自身を容易く敎育し得るのみならず、その學課に於て彼の生徒をも十分に敎育することが出來るので御座います。自分を完全なものにしたいと望んで居るやうな殊勝な心掛けの敎育家は

直きに、彼自身に於ける、ペスタロッチの方法のかゝやかしい結果を、衷心の悦びを以て見るでありませう、彼はそれが彼自身の性質に基いて居ることを知るでございませう、而してそれが爲めに、ペスタロッチの原理は彼自身のものとなり、彼の生活の中に入つて來るので御座います。然る時に、彼は彼のすべての行動に於て、ペスタロッチの方法を精神と愛と溫かさといのちと自由とを以て、現すことが出來るので御座います、それ故に彼は彼の生徒を、自分の子か兄弟のやうに思つて、彼等の要求に從つて、敎育することが出來るので御座います……。

目下、都會及び田舍の二つながらに於て、學校に蟠つて居る誤謬はこの方法を採用することによつて、除かれるで御座いませう。ペスタロッチの原理によつて學校を組織することによつて、必ず得ることの出來る結果は秩序であります、心身を常に自分の思ふまゝに敏活に働かし得ることであります、敎養に於ける卒業的の進步であります、生徒に關する生々とした根本的の智識及び生徒の諸性質への透入的視察であります、生徒をして眞に學校を愛さしめ、敎師を愛さしめることであります、すべての種類の階級からつまり世間一般から、皮相の知見を驅逐して了ふことであります……。質朴、天爵に甘んずること、不拔獨自の品性、思慮深き行爲、實踐的德性、眞の宗敎、斯ういふものがペスタロッチによつて敎育された市人を標示するで御座いませう、而して家庭的及び都市的の幸福は請合はれてあるで御座いませう……。

ペスタロッチの方法は、何處にも、局限を設けません。人の發達、全きを期する人の敎育の無究の進途、若しくは時空に制限せられない、人の智識のひろがりに對して、何處にも、障礙防塞を築いては居りません」

▲フレーベル主義の撮要▼

フレーベルの教義は、その頃の彼の若き生活、理想主義、及びペスタロッチといふ三個の源流が相集つて流れたものに外なりません。

フレーベルはペスタロッチよりも、目的といふことを深く考へてゐました、即ちすべて眞の發達といふものは、從つてすべて眞の教育といふものは、自己命令的の過程である――目的が人間の教養及び進歩の基調であるといふ生きた原理を明確に懷いてゐたといふことは事實でありますが、彼の教義がその生きる力をペスタロッチから得來つて居ることも亦否定出來ない事實であります。フレーベルが教育界の先哲の一人として思想史上に炳乎たる光を投げて居るのは、彼がこの點を力説したからであります。いけないことには彼の青年時代の型と彼の漠然とした理想哲學とが、彼の生來の夢みがちな、思索的な氣分に結び付いて、彼の思想を、神秘主義の色を以て染め爲し、且つ又數學的及び擬形而上學的の不條理の數々を以て彼の體系に不面目を與へて了ひました。

次にフレーベルの體系の中から主要な部分を撮要して長く續いたこの記事を終らせたいと思ひます――。

(一)人は、その本質的渾一に於て、すべてのもの、殊に自然と共にあるものであります、何故ならばすべてのものは神のあらはれであるから。

(二)發達の連續は、教育せらるべき兒童に於て、及び依つて以て兒童の教育が達せらるべき外的の方法に於て、等しく見出されます。それ故に教育の學課に關する發達の法則は學課それ自身の中に見出されるべきであります、又この法則は、一種の豫備的調和によつて、發達しつゝある人間の魂の繼起的の要求に一致するのであります。

(三)ペスタロッチに從へば、教育するものは生活であります。而してそれ故に教育的過程の本質は目的を喚起し、命令することであります、又兒童によつて、それらの目的の追求に、適當な方法

を供給することであります。

（四）目的を斯く追求するといふことは、必然的に身體的の活動に結合されます、幼年時代に於て殊にさうであります。

（五）訓練の本質的職分は、人間の中にある神の心を全からしむることであります。從つて教育は強制したり、束縛したりするよりも、保護したり、奬勵したりすべきであります「教育、教化、教授の根本的原理は受動的、保護的であらねばならぬ命令的、干渉的であつてはならぬ」……。「教育は命令的よりも受動的、保護的であらねばならぬ、然らざれば人間の中にある神の心の自由な而して意識的な開展――それは人間種族の自由發達である――は失はれて了ふ」……。「純粹の命令的の教育は、自意識が發達して了ふまでは、始められてはならぬ。何故ならばその時になつて始めて、個人の本質的の性質が明かになるからである。故にすべての生徒に於ける原始の健康な性質の缺點の種子と種類とが明かになつて來る前に、爲し得られるところのすべては、兒童を、彼自身及び他の者にまで彼の行爲の結果が明かにせられ得るやうな周圍の中に、置くことである。而して同時に惡しき傾向の活動する機會を成るべく尠くすることである……。然る時に、すべての善き教育に於て、すべての眞の教化に於て、必要が自由を喚起すべきである。法則が自己決定を招致すべきである。外部的の强制が內部的の自由意志に發達すべきである。外的の憎惡が內的の愛を產むべきである。」

この最後のくだりは重要であります。而して强められる必要があります。何故ならばそれは教練に就てのフレーベルの考をよく現して居るものでありまして、それにも拘らず屢々不問に附せらるるからであります。彼の教義は屢々、ルソオによつて說かれたやうな、すべての人間の抑制を拒否するものであるかのやうに解釋せられて了ひます。

そんなことは少しもありません。フレーベルは意志を訓練し、本能を拒み、目的に從ふ爲めに、抑制の必要であることを明かに認めて居るのであります。彼は斯う言つて居ります、「敎化によつて幼年を訓練することの主なる目的は、眞の人間生活の純眞な目的の上に横つて居る、活動的な、確固とした、不拔な意志を養成することである。」けれどもすべて斯る訓練は、効果的であるためには、兒童の生活の內心の核の上に、働かれねばなりません。「兒童の自然的活動が意志の確かさにまで持ち上げられるためには、その活動のすべてのいとなみが、彼の心の發達と形成とから湧き出して、これと不斷の關係を保つて居らねばならぬ。」

人間の惡を矯正するためには、その生得の善き傾向を發揚させて、之を育てゝ行くべきであります、然る時には惡は竟にその影を潛めて了ひます。

自己統轄は十分に練習されねばなりません。生理的の力も養成せられなければなりません。これがなければ、幼兒敎育の中心となるべき眞の訓練を十分に行ふことが出來ないからであります。生徒のためならば、かなり嚴酷な罰でも忍んで課さなければなりません、「幼年期こそ訓練の時である。」以上の記述によつてもフレーベルがルソオの野放しの說を採用して居るのでないことは、了解せられるでありませう。フレーベルが訓練の必要と價値とを認めてゐたことは爭ひ難き事實であります。

（六）以上の訓練の原理から幼年期の訓練の重要といふことが述べられます。所謂三ツ子の魂百までも」であつて、幼年期に受けたる精神生活上の傾向は永久的なものであります。兒童は先づ、兩親及び他の大人によつて、彼のために爲されることは彼の內的生活を、それ自身として全體ならしめ、同體に大なる全體の一部とならしめやう爲めであると感ずるに違ひありません。この考へが彼をして、彼の兩親に對して感謝せしめ、すべての

年長者に對して尊敬を懷かしめるのでありませう。

（七）發達しつゝある魂と外部的訓練の方法との間に調和が存するといふ概念から、フレーベルによつて發達せしめられた方法が眞の教育のためには缺くことの出來ないものであるといふ教義が續いて來るのであります。

これはフレーベルも深く自ら信じて居ります。それ故に「恩物」と「仕事」とはフレーベルの教育組織の中に於て、重要な部分を成して居るのであります。彼の心にとつては、「恩物」や「仕事」は外的の方法――而かも唯一の案出し得らるべき外的方法――であつたのであります。而してこれによつて、すべての事物の渾一及び精神的發達の連續の了解が保證せらるゝのであります。それ故に彼は是等のものが幼年期に於て用ゐられなかつたならば、少年期に於て、用ゐらるべきであると說いたのであります。彼はこれに就て斯う言つて居ります、「多くの場合、子供といふものは、彼等が既に學んでゐなければならぬことに對つては、常にいくらか年をとり過ぎて居るものである。けれども彼等は、彼等が既に幼年期を通過して了つて居るからといふ理由で、一生この訓練を受けずに濟まされてよいものであらうか。」

彼は又恩物に就て次のやうに述べて居ります。

「恩物は等しく、兒童の性質と玩具の本質的の性質との上に、その基礎の置かれてあるものである。兒童は物質的、形而下的の彼の身體によつて、精神的存在として、事物の世界に關係して居るものである、恩物は右の事實にその根ざしを持つて居るのである」

仕事も同樣に必要なものであります。

「恩物」や「仕事」は、訓練の方法として有り得べき多くのものゝ中から取つた一つではなくて、唯一の眞の方法であつたのであります。それ故にこれは彼が世界に與へた教育組織の本質的の部分

であるのであります。然るに現今のフレーベル追從者は、彼等自身を、フレーベルの弟子と稱することに熱心であるにも拘らず、その師の「恩物」や「仕事」を濫りに廢して了つて、各自勝手な訓練方法をとつて居ります。尤も經驗によれば、或る種の「仕事」は子供の生理的發達段階に對しては、不適當であり、幼きもの丶筋肉をあまりに早くから使ひ過ぎ、不相應な緊張を眼に課するといふことは明瞭であります。

けれども彼等か「恩物」や「仕事」を踏襲しないのはこの實驗的の根據にばかり基くのではなく彼等はフレーベルの神秘的の象徵主義を顧みないのであります。

けれども、これは最も特色的な、フレーベルの教授に關する部分を無視することになるのであります。丁度近代のヘルバルト學徒の多くがヘルバルトの教育主義に緊密な關係のある心理學と哲學との全體を拒みながら、たゞ單に彼等が教育の興味と連續とを信奉するといふ理由で、ヘルバルトの名の後に彼等自身を名宣ることを悅ぶやうに、多くの思慮深き近代のフレーベル學徒は、自己命令的の活動の偉大なる原理には忠實でありながら、彼等の師の組織の他の部分には少しも忠實ではないのであります。

偉人の仕事に於ても、その間違つて居る部分、重要でない部分が、消滅して了つて、生きた眞理のみが殘つて行くといふことは、確かにいゝ事であります。けれどもヘルバルト學徒の場合に於ても、フレーベル學徒の場合に於ても、その師によつて獨創的に述べられた、生きた眞理は無いのであります、從つてその組織を全體として信奉するものを現すべきヘルバルト學徒、フレーベル學徒といふ如き稱呼は誤解を招き易いのであります。

（完）

日本一の幼年

□倉橋惣三先生監修

本誌は、三歳から拾歳までの子供の爲め美しい繪と、面白い噺とを、教育的に組み合せた他に比類なき繪雜誌です。

本誌は、玩具とお噺しとの興味及び教育的價値を兼ねあはせたるもの、子供には何よりも喜ばれ、何よりもよき友達となります。

定價　壹冊拾錢　□半年郵税共六拾參錢　郵税壹錢　□壹年同　壹圓貳拾錢

婦人畫報
少女畫報
日本幼年
發行所　東京京橋鍛冶橋外
振替東京四九〇〇
東京社

土方久元伯、股野琢、與倉喜平三閣下題字並序
東京帝大教授中島力造、松本亦太郎兩文學博士序
東京高師教授乙竹岩造、佐々木吉三郎兩先生序
東京女子高等師範學校教授下田次郎先生序　平瀨龍吉著

萬民必讀 兒童問題と將來

親として子を愛せない者はなく、子孫の出精と發展を望まない人はない。本書は斯る父母と幼稚園媒姆の爲に無垢の兒童を立派な人物に仕立てる途をば面白く流麗、玉の樣な歌の體に書き流したもので何人も一度本書を繙く時は其面白さに醉されて卷を終ふるを忘るゝと云ふ一大快著たることは甲賀ふじ子先生を始め斯道大家たる乙竹岩造先生等が『本書は兒童問題の將來を面白く說いた本で、廣く一般家庭に詳讀諷唱せられましたら、到る所、偉大なる富豪金傑の氣魄精神を兒童の間に鼓吹することを得て、大和民族の發展と幸福進歩の爲に大なる益を與ふるものたるを保證して疑はない』との評語を見ても明かである。子女の賢明を望まるゝ父母と兒童を愛する方々が之に依りて新しき敎訓と大なる利益を受けられんことを望む。

正價金壹圓參拾錢送料拾錢

發行所　東京市小石川區大原町十四　幸運社　振替東京參壹八八九番

賣捌　東京麴町區三番町　フレーベル館　振替東京一九六四〇番